

## 【日植防シンポジウムから】

# 野菜をめぐる情勢とそれを踏まえた 病害虫防除への期待

農林水産省 農産局 園芸作物課 いま **野** の **聡**  
の野

## はじめに

令和2年度の我が国の農業総産出額を見ると、野菜は2兆2,520億円と畜産に次ぐ産出額で、農業総生産額の1/4を占めている。産出額の多い野菜は、2,240億円のトマトを筆頭に、いちご、ねぎ、きゅうり、キャベツ、たまねぎ、なす、ほうれんそう、だいこん、レタスの上位10品目で産出額の約6割を占めている（図-1）。我が国の野菜生産は、カロリーベースでの自給率の寄与率は6%と小さいものの、農業生産に重要な役割を果たすとともに国民の健康増進や農業振興のうえで重要な作物である。

本稿では、野菜をめぐる生産、流通、消費、輸出入の動向を踏まえ、解決に向けた取り組みとその方向性について述べる。なお、本稿は、2023年1月に開催された

日本植物防疫協会シンポジウム「農業生産現場が直面する病害虫防除の課題を考える」での講演をまとめたものである。

## I 我が国の野菜に係る動向

### 1 生産環境の動向

#### (1) 作付面積と就農者

令和2年度の野菜の作付面積は約39万ha、生産量は約1,144万トンとなっている。平成22年度からの推移を見ると、作付面積はここ10年で約43万haから微減、生産量はやや減少傾向は認められるものの、ほぼ横ばいとなっている（図-2）。野菜の主な産地を地域別に見ると、関東・東山が28%、次いで北海道が25%、九州が15%、東北が9%、東海7%、近畿が5%、中国が4%、北陸と四国が3%となっており、北海道、関東、九州で全体の

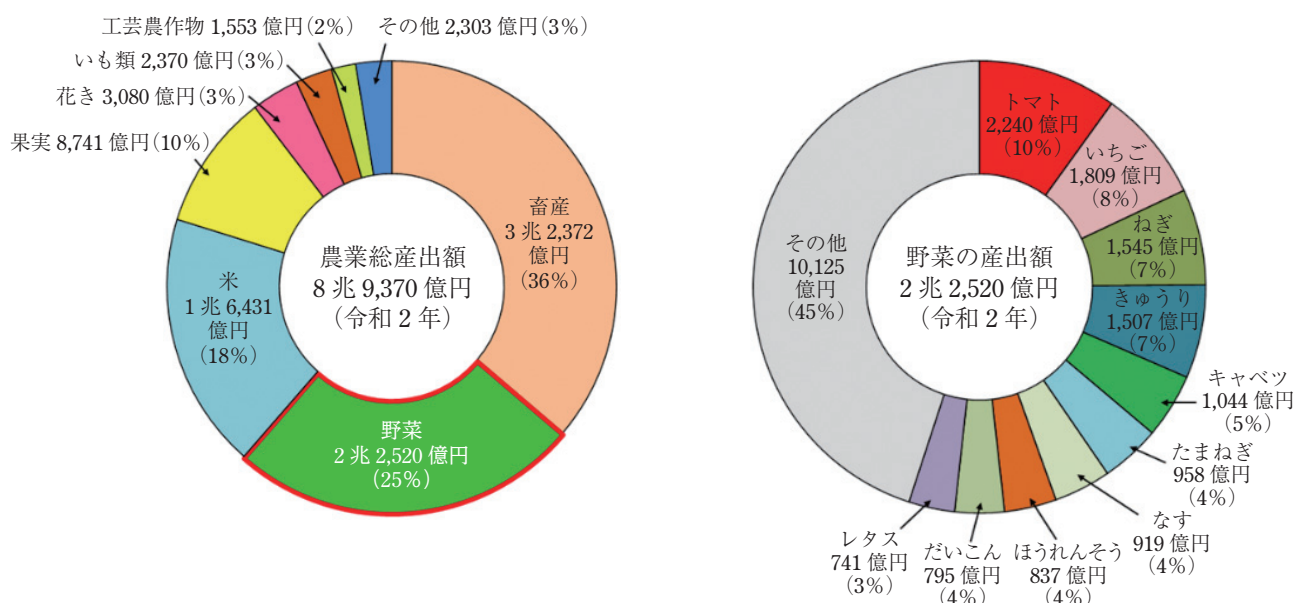


図-1 令和2年度の農業総産出量（左）と野菜の産出額の品目割合（右）（農林水産省，2020年，生産農業所得統計）

Trends of Production, Distribution, and Consumption on Vegetables in Japan, and Expectations for Disease and Pest Control Based on These Trends. By Satoshi IMANO

(キーワード：野菜、生産、流通、消費、輸出入、病害虫防除)